令和5年度　園評価書

園番号　36　園名　有度北こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心も体も元気な子	自分で考えてやってみよう	**明るく元気な子の育成** 室内外で元気に遊び諸感覚を使った遊びを十分行っている	子どもの興味、関心、発達の捉え、遊び出しの環境、子どもの育ちの願い、経験させたいことなど見通しを持つことを意識し、話し合いを行った。砂・水・泥・草花・木の実・落ち葉などの自然物に触れての遊び、雲梯・フープ・コンテナ・パレット・お風呂マット・タイヤ・戸板・ロープなどの可動遊具を使っての遊び、鬼ごっこや三輪車・ボールを使った体を動かす遊び、廃材や絵の具・ハサミを使っての制作遊びなど、好きな場所で遊べるよう準備した	A	A	・園庭での遊びを見ても、子ども達が主体的によく遊び、生き生きとした表情をしている。先生方が子どもたちに合った用具を準備したり、クラスごとの遊び場(拠点)を作ったりしていることがわかる ・環境のスパイスが効いていることがわかり、どの子も自分の遊びに夢中になっている姿が感じ取れる	毎月のクラス会議、幼児乳児会議、リーダー会議の中で子どもの実態を捉え、次の遊びへのつながりや室内外にこだわらない、どこでも好きな遊びの継続ができるような環境準備、長期的な遊びの見通しについて話し合っていく
		自分から人や物と楽しんで関わる子の育成 身近な人や物と触れ合い、自分で決めたり、選んだり、葛藤したり、思いやる体験をたくさんしている	まず保育教諭が表情や仕草から子どもの思いを受け止め、言葉で代弁したりスキンシップを図ったりすることで安心できる存在となり、自分の気持ちを出せるようにした。発達や興味、育ってほしい願いから環境準備を行い、遊びの中から自分が考えたようにできない葛藤体験や玩具の取り合い、思いの相違など自他の思いに折り合いをつける経験ができるよう、子どもと一緒に遊び、見守ったり必要な援助を行った	B	A		保育教諭が一番身近な存在として信頼関係を築くことを継続し、子どもの遊びに入り一緒に楽しむことで興味を捉え、必要な教材や環境を準備していく。また大人が率先して片付けや物を大切にする姿、飼育・栽培する姿を見せることを意識し、子どもの気づきや葛藤、思いやる場面を見取れるよう自分の保育を振り返り、園内研修を行っていく
		興味や関心を持って関わる子の育成 「なんでだろう」「どうなるのかな」「やってみよう」と感じられる体験をたくさんしている	子どもの「なんでだろう」を言葉だけでなく表情や視線から読み取れるよう子どもをよく見たり、先走って答えを出すことや提案しすぎたりしないようにした。反面、待ちすぎると遊びが停滞してしまうこともあったので、遊びの環境に一つスパイスを加えることや必要な援助の見極めを意識した。幼児は「どうしたらいいと思う？」と投げかけることで、考えたりやってみようとする姿が増えているので続けたい	B	B		保育教諭も「やってみたい」「やってみたらどうなるんだろう」の気持ちを持つことで、子どもの思いや遊びの展開を予測して環境の準備や援助を考えることができるので意識していきたい。子どもの気づきを職員間で共有し、園全体で協力し環境を整えていく

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標を意識して教育保育が進められている	週案や公開保育指導案に学年目標、研修テーマ、手立てを記入する欄を作り毎日意識することで、自分のクラスだけでなく他学年の目標や発達についても目を向け、期、月、週指導案のねらいを立て、子どもの姿や経験させたいこと、幼児期までに育てたい姿と照らし合わせて教育保育を行った	A	A	・子どもの姿や室内外の環境を見ても、乳児は手作り玩具が多く、幼児は自分達で変えられる可動式の用具が準備され、０～5歳児の発達に添っていると感じる ・コロナ禍が終わり、小学校なども行事など以前のようにできるようになったこともあれば、簡素化されたままになっていることも多い。マスク越しで過ごしたことや黙食など、人間関係が希薄になったり発達が促せない生活が続いてしまったが、有度北こども園では葛藤体験や気持ちに折り合いをつける経験を大事にしているという職員の姿勢が感じられ、これからも保育教諭の見守りを大事にしてほしい ・コドモンが始まって、園側にメリットはあるのか？先生方の業務負担になっているのではないかという思いもあるが、連絡帳の運用予定であることがわかり、身長体重測定表の活用などこれからの稼働に展望があるようなら良かった ・先生方はよくやっていると思う。B評価をつけているが、A評価をつければいい所が多く、高みを望みすぎているのではないか？改善策を見てもそこまで指導することはない ・お風呂マットやタイヤ、コンテナ、赤土など教育環境の工夫ができ、子どもの発達を考えているので、来年も継続してほしい ・幼保小の連携から小中の連携に変わってきているため、小学校との連携は園側からの積極的なアプローチが大切である。園児が作った物（勤労感謝のカレンダーやクッキングしたもの）を持っていくなど小学校に行く機会を作っていくといい ・常葉大学の芝生広場に遠足に出かけたり、養豚場に行ったりと、先生方のアイディアを活かし地域とのつながりを大切にしてくれていてありがたい ・子ども達が毎月のおはなしの会ぽけっとを楽しみに待ち、毎回積極的に参加してくれていて嬉しい ・地区のS型デイサービスや子育てトークの担当者と話をして、来年度は協力してやっていけると思う	他学年の保育を見たり、異年齢交流をしたりする中で発達や遊びの長期的な見通しを持ち、就学までのつながりを意識して保育していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	落ち着いた生活リズムの中で一人一人が安心して園生活を送れるような配慮をしている	早遅番がクラス保育から幼児・乳児保育に変わり、体調や様子などの伝達を連絡帳や出席ボードを用いて確実に行い、一人一人の生活リズムや家庭環境、気持ちに寄り添い、必要な情報を職員で共有した。生活の流れに見通しが持てるよう視覚支援を利用している	A	A		子どもの生活の基盤は家庭であるが、環境も多様化し、生命の保持や情緒の安定など養護が必要な場面が増えているので、園全体で共通理解し、個別で丁寧にかかわったり、安心できる環境作りを続けていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもたちの発想を豊かにしたり、挑戦できる環境作りを意識して行っている	コロナ禍が続き、ごっこ遊びの中でイメージする力が弱いと感じていたので、必要な教材、用具を準備するだけでなく、保育教諭が一緒に遊んで作ったものを見せたり、子どもたちに身近な本物との出会い（例：マクドナルド）を意識した。また巴川沿いを歩いて風の冷たさや富士山の変化を感じたり、くさい臭いを探しに養豚場に出かけたりと五感（風、におい、景色など）を使う経験ができている	B	B		新しい遊具（特に運動面）や用具、素材をタイミングよく提供することで、挑戦しようとする意欲につながっているので、子どもの実態に見合った環境になっているか、明日につながるために必要な物との出会いやスパイスのタイミングとは、など日々の保育を振り返り、職員会議で提案、共有していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	災害時に取るべき行動がとれるように様々な状況を踏まえた訓練をしている	具体的な想定や予告なしでの避難訓練を実施し、子ども達は年齢に合わせた行動や避難の仕方が身についてきている。職員は訓練ごとに反省と課題を出し、安全会議で振り返りを行うことで、次の訓練に活かせている。マニュアルの読み合わせや各クラスの安全チェック、ヒヤリハットを行い、その後改善できたかどうかまで会議の中で報告している	A	A		引き続き、様々な想定での避難訓練を実施し、子どもだけでなく保育者自身が役割を理解し連携を図っていく。反省の記入が遅くなると、次回の訓練に生かせないので手渡しするなどスピーディーに行うようにする
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	健康な生活に必要な習慣を子どもや家庭にも日々の生活の中で丁寧に伝えている	年齢や発達に合わせて見守ったり、声をかけたり、手を添えたりして、手洗いやうがいなどの必要な生活習慣が身につくようかかわっている。野菜の栽培、クッキングを通して生長を感じたり、触れたり、匂いを感じたり、味わったりする経験ができた。感染症状況を毎日玄関に掲示し、毎月19日の食育の日にはマナーや栄養について話したり、集会でだしの実演をしたり、掲示板や食育だよりを通して家庭に発信したりした	B	A		トイレ後の手洗いの見届けやポケットにハンカチ、ティッシュを入れることなど徹底していく。生活習慣は家庭の環境や背景が大きくかかわってくるので、掲示板や食育だより共に、だしや行事食の実物を見せるなど、園からの発信を続け家庭への啓蒙を行っていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人に合った支援計画を立案し、その子らしさを大切にし園生活を楽しめるようにしている	どの職員でも対応できるように、一人一人に合わせた具体的なサポートプランを作成、周知し、課題があった時には、毎月のケース会議でストラテジーシートなどを使用して支援方法を考え、意見を出し合った。毎月のミッキー活動、年４回の虹の会の実施、外部講師による年４回の自主研修への積極的な参加などから子どもの姿、保護者の思いの共有、支援方法についての共通理解をしていった	A	A		ケース会議などでサポートプランを見る機会を作り、全職員が同じ対応ができるようにしていく。外部講師による自主研修への正規職員以外の参加の呼びかけ、伝え方の工夫をしていきたい
5 組織運営	(1)組織体制の充実	それぞれの職員の良さを活かし互いの思いに共感しながら連携をして保育を進めている	分掌担当では、様々な立場の職員がよさを活かして行事や活動を進めることができた。クラス会議を頻繁に行い、子どもの姿や互いの思い、考えを共有しながら保育していった。会議では、多くの職員が参加できるよう時間や人員配置の配慮、意見が出しやすい少人数での話し合いなどやり方を工夫し、参加できなかった職員への報告も必ず行い、全職員で連携して保育を進めている	A	A		幼児会議、乳児会議、リーダー会議が毎月できていないことがあったので、特に行事の前には計画的に行い、他クラスの様子を意識していくようにする。クラス担任だけでなく、フリー保育教諭が行事の中で役割を担ったり、会議に参加する機会を増やしていく
6 研　修	(1)研修体制の充実	「なんでだろう？」がうまれる環境と援助をテーマに遊び環境を整え、自分の保育を見直したり学びに活用したりしている	テーマに沿って『思いや気づき、不思議を引き出す援助になっていたか』『知りたいが叶えられるような環境になっていたか』の視点に基づき、事前事後研修でキーワードを決めて話し合い、学びを深めている。乳児でも「なんでだろう？」と感じている場面があり、よく見る、待つ、タイミングよく関わること、保育の振り返り、環境の再構成を行うことを意識した	A	A		今以上にできるだけ多くの職員が研修に参加できるような方法（グループワーク、時間の調整など）を工夫し、園全体で研修内容を共有できるよう研修資料を掲示することを続けていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どものやってみたいと思える環境を整えたり、必要に応じて変化させたりしている	人的環境という意識を持って子どもと一緒に遊びを楽しむ中で、子どもがどこに面白さを感じているのかを見取り、クラス会議で次への環境準備、関わり方を考え、話し合いを行い、幼児会議、乳児会議、リーダー会議で情報を共有し合い、課題提起や提案を行って環境の再構成を行った	B	A		園内研修の中で、保育教諭が子どもに育ってほしい願いを持つこと、具体的な遊びの広がりをいくつも予測することの大切さを学んだことで、職員の意識が変わってきているので、引き続き明日に続く遊びの終わり方、今日もやりたいと思える魅力的な配置の仕方を考えていく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	面談や参観会を行い子どもについて語り理解しあうことで、保護者に寄り添って子育て支援ができている	年2回の保育参加会と面談、懇談会の実施、親子遠足や運動会などの行事を通して、具体的な子どもの姿を伝え成長を喜び合ったり、悩みや情報を共有し合ったり、写真を使ったクラスだよりやドキュメンテーションの掲示を増やした。保護者アンケートや面談でいただいた意見に対して、すぐに職員間で話し合い、具体的な解決策を考えて対応していった	B	A		園からの発信は続けながら、『寄り添う』とはどういうことかを自分の保育や保護者対応の中で振り返り、直接会えた時には、保護者に労いの言葉を一言添え、小さなことでも丁寧に伝えていくようにする。忙しそうにせず、保護者がいつでも話したくなるような余裕のある園全体の雰囲気作りを意識していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育・公開授業での交流を図り、有度北こども園の教育保育をわかりやすく伝えている	正規職員・会計年度任用職員フルタイム全員が１回以上、他園への公開保育に参加し、学んだ環境やかかわりについて共有している。また自園の公開保育にも他園から10名参加していただき、意見や学びを園の保育に活かしている。近隣の小学校の公開授業、幼少保接続協議会に参加したり、1年生との交流会に参加し連携を図った	B	B		他園、他校からの研修の学びを書面で報告しているが、より理解するために写真などを使って口頭で報告したり、写真掲示して学びを共有していきたい。小学校への散歩を増やして、積極的に交流していきたい
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域行事への参加、また保育参加への推進を図ることで地域とつながり、子どもの体験を豊かにしている	毎月のお話の会ぽけっと、たけのこ掘り、地域敬老会、花育の会の参加、常葉大学広場への遠足などを通して、地域の方との交流を図り、園だけではできない体験をすることができ、子ども達も楽しみにしている。近隣企業スター精密と協力して避難訓練を実施することも続けている。おしゃべりサロンや園見学、一時保育の受け入れを積極的に行った	A	A		散歩に出かけた際は今まで以上に地域の方と挨拶を交わしたり、子どもが興味を示した場所や物について教えてもらったりしながら、地域のいい所を知り、コミュニケーションを図っていく。子育てトークの会やS型デイサービスなどにも参加したい